

平成 25 年度第 2 回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：平成 26 年 1 月 29 日（水）14 時 00 分～16 時 10 分
開催場所：長野市清掃センター 1 階 大会議室

【次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付及び委員紹介
- 3 環境部長あいさつ
- 4 事務局自己紹介
- 5 正副会長選出
- 6 正副会長あいさつ
- 7 議 事
 - (1) 一般廃棄物処理基本計画等について
 - (2) ごみ処理の概要について
 - (3) し尿処理の概要について
 - (4) 今後の審議会の開催予定について
- 8 その他
- 9 閉 会
 - ・清掃センター施設見学【希望者】

【会議資料】

- ・資料 1 審議会に関する法律・条例・規則（抜粋）
- ・資料 2 長野市廃棄物減量等推進審議会委員名簿
- ・資料 3 事務局職員名簿
- ・資料 4 長野市一般廃棄物処理基本計画 概要版
- ・資料 5 長野市一般廃棄物処理基本計画
- ・資料 6 平成 25 年度 長野市一般廃棄物処理実施計画
- ・資料 7 平成 25 年度 長野市ごみ処理概要（平成 24 年度結果）
- ・資料 8 平成 25 年度 長野市し尿処理概要（平成 24 年度概要）
- ・資料 9 平成 26 年度 審議会開催計画（案）

- ① 長野市清掃センターの紹介
- ② 長野市清掃センター施設案内（パンフレット）
- ③ 長野市衛生センター施設案内（パンフレット）

【出席委員】 14 名

【欠席委員】 1 名

【事務局】 16 名

【報道・傍聴者】 0 名

【会議内容(要旨)】

1 開 会

◇会議の成立と公開について報告（事務局）

◇資料1「審議会に関する法律・条例・規則（抜粋）」により説明（事務局）

2 委嘱書交付及び委員紹介

◇委嘱書交付は、時間の都合上、事前に配布（事務局）

◇資料2「長野市廃棄物減量等推進審議会委員名簿」により紹介（事務局）

3 環境部長あいさつ

新しい任期が始まり、本来であれば市長が挨拶を申し上げるべきだが、本日、所用があるため、代わって挨拶を申し上げる。

日頃から長野市の行政、とりわけ環境行政に深いご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

本審議会は平成17年に設置され、この度5期となり15名の委員皆様にご就任いただいた。2ヵ年の任期となるがよろしく願います。

本市のごみ処理については、平成21年10月から家庭ごみ処理手数料有料化を導入し、また新たに剪定枝葉の分別収集を開始し、ごみ減量と資源化の推進に努めている。平成23年4月に長野市一般廃棄物処理基本計画を策定し、平成28年度までの6年間、この計画に基づき適正な廃棄物処理に取り組むが、平成26年度には中間評価と見直しをお願いしたい。

生活排水対策については、全戸水洗化を目指し、公共下水道、農業集落排水事業、合併処理浄化槽の各整備により、一層の促進を図っている。一方、水洗化の進展に伴いし尿等の収集量は年々減少しているが、し尿及び生活雑排水汚泥収集の適正な受益者負担、また確実な収集体制の確保を図るため、昨年し尿等処理手数料改定について諮問し、慎重かつ十分な審議の上、答申をいただいた。答申内容を基本としたし尿等の収集料金の改定について、昨年12月の市議会定例会で議決をいただき、本年4月から改定を実施する。ご審議をいただいた委員各位には感謝申し上げます。

本日は、ごみ及びし尿の処理基本計画や概要を説明申し上げ、限られた時間ではあるが清掃センターの施設見学を計画した。長時間にわたるが、よろしく願います。（環境部長）

4 事務局自己紹介

◇事務局職員による自己紹介（所属長のみ）

◇資料3「事務局職員名簿」により割愛（事務局）

5 正副会長選出

（委員） 会長に富所委員を推薦申し上げます。富所委員は信州大学名誉教授で、前任期では会長を務めていただき、一般廃棄物処理手数料の改定や災害廃棄物処理計画の策定等にご尽力いただいたため、もう一期お願いしたい。

《拍手で賛同の意を表明》

（事務局） 委員皆さんの賛同をいただいたので、富所委員に会長をお願いしたい。

（委員） 副会長に松本委員を推薦申し上げます。松本委員は信州大学工学部土木工学科の准教授で、長野市廃棄物処理施設設置審査会や長野市廃棄物処理事業計画審議会の委員を委嘱されているため、本審議会の副会長として最適任と思われる。

《拍手で賛同の意を表明》

(事務局) 委員皆さんの賛同をいただいたので、松本委員に副会長をお願いしたい。

6 正副会長あいさつ

(会長) 去年3月まで住民自治協議会の副会長、また東風間区の区長を務めていたため、前任期時は審議会に専任できなかつた。しかし、現在は地区の相談役のみのため、審議事項について皆様に色々情報提供していきたい。

来年度は一般廃棄物処理基本計画の中間評価・見直しがあり、次の計画の方向性を決める形にもなる。次回、平成29年度以降の基本計画へ繋がる審議をしなくてはいけない重要な任期である。

色々な面からご意見をいただき、長野市の廃棄物処理がより良く行えるよう、ご協力をお願いしたい。

(副会長) 経験不足と思われるため、皆様からご協力をいただき、精一杯務めさせていただく。会長、私が信州大学工学部出身の学識経験者のため、偏った見方をしてしまうかもしれない。それを一番恐れているため、様々な見識の中から意見をお出しいただき、より良い長野市の環境行政を築いていきたい。

7 議事

(1) 一般廃棄物処理基本計画等について及び(2) ごみ処理の概要について

◇資料4「長野市一般廃棄物処理基本計画 概要版」、資料5「長野市一般廃棄物処理基本計画」、資料6「平成25年度 一般廃棄物処理実施計画」、資料7「平成25年度 長野市ごみ処理概要(平成24年度結果)」により説明(事務局)

<以下、質疑応答>

(委員) 可燃のごみ袋は10~40ℓあり、非常に有り難い。一番小さい10ℓであれば、その容量で収めようとするため減量に繋がると思う。大きな袋だとまだ入る余裕があり勿体ないと感じ、他に捨てるものがないか探してしまい、まだ使用できるものも捨ててしまう。特に高齢者世帯はこういう傾向にある。

ごみ袋の販売について、袋の売れ筋を見ながら仕入れをしていると思うが、10ℓの袋が店頭には並んでいないお店がある。全種類店頭に並べるよう、指導は行っていないのか。

(事務局) ごみ指定袋は小売店に販売の許可をし、市に代わって処理手数料を徴収する委託契約を結んでいる。販売許可に当たり、必ず全種類を店頭に並べることを条件としている。店頭には全種類ない場合は許可要件と異なるため、指導していきたい。

(委員) 場所によっては高齢者通りと言われる、高齢者だけが住んでいる所がある。そこに住んでいる人達は一番近いお店に足を運ぶが、そのお店に全種類ないという声をよく聞く。

(事務局) 許可条件に則りごみ指定袋の販売を行なうよう、徹底させる。

(3) し尿処理の概要について

◇資料8「平成25年度 長野市し尿処理概要(平成24年度結果)」により説明(事務局)

<以下、質疑応答>

(委員) 平成22年度が一番減量するのは、有料化があったから当たり前である。平成23・24年度と微増しており、今後リバウンドになっていくのではないかと思われる。厳しい目標値を設定して、皆さんが達成する。しかし、徐々に増えてきているという状態だと思う。

資料7の17頁の①ごみの総排出量、②市民一人一日当たりの家庭ごみ排出量について、総排出量は段々減っていくが、市民一人一日当たりの家庭ごみ排出量は然程変わらない。これは人口が減っていくと考えて良いか。

(事務局) ごみ量は、一人当たりどのくらい減量させるかという観点と人口減少の両方を見据えていくため、違いが明確に出た。

(委員) 平成27・28年度の目標値について、総排出量はほぼ変わりなく、市民一人一日当たりの家庭ごみ排出量はフラットになっているが、平成28年度が最終目標値と考えているのか。世界情勢や日本情勢等が関係してくるが、更に減量を考えているのか。

(事務局) ごみの組成分析結果によると、資源になる紙の混入が目立つ。総排出量については、可燃ごみから資源物に回るため、変わりはない。

もう一点大きいものは生ごみである。自家処理機器の補助制度と共に、有料化に併せて手軽にできる段ボール箱を活用した生ごみ自家処理講座の普及に努めている。生ごみがどのくらい減ったか数値で示すのは難しいが、減っていることは間違いはない。生ごみ処理施設を整備すれば大きな減量に繋がると思うが、処理施設の整備は非常に難しい状況である。皆様の知恵をお借りし、また市の立場として積極的に生ごみの自家処理を推進することにより、まだ減量できると考えている。

(委員) 生ごみは、水切りを行なうだけでも減量に繋がる。

余裕がなく厳しい状態であり、画期的な方法がない限り一気に減らない。家庭ごみの減量は地道に考えていかななくてはいけないと感じた。

(事務局) 有料化時、市民皆さんに色々なご意見をいただいたが、最終的には協力をいただき、この数値までもってこることが出来た。更なる減量はハードルが高いと思っっているが、より高い目標は常に持つべきと考えている。しかし、それに対応する施策が簡単に出ないため、皆様の知恵をお借りしたい。

(委員) 事業系も増加しているが、分析結果を教えてください。

もう一点、イベント開催が多くなってきているが、イベントごみは事業系になるか。イベント主催者にごみ減量の方針を出すことにより、家庭ごみより減量しやすい。そのためイベントごみの減量に取り組んでいる自治体がある。イベントごみの減量と同時に、全体のごみ減量啓発に繋がるため、是非取り組んでいただきたい。

(事務局) 事業系のごみは景気と連動している。増加している原因が景気によるものなのか簡単に言えないが、増加傾向にある。清掃センターと協力し、事業所から排出された廃棄物の展開検査を行なっているが、本来、産業廃棄物として処理しなくてはならないものが、若干ではあるが搬入されている。有料化に併せて、事業系の剪定枝葉についても民間リサイクル事業者への誘導を図り、可燃ごみとして清掃センターへの搬入を原則禁止としたため、大きな成果があった。また、多量排出事業所に対しては、廃棄物管理責任者の選任、事業ごみの減量に関する計画書の作成・届出を義務付けているため、前向きに進んでいる。

イベントごみについては、長野市が主催するものを対象に、ごみの処理方法やリサイクル、またごみの持ち帰り等、ごみを減らす方策をどのように行なっているか当課が調査をした。市が関わるイベントについては、環境部が関わって意識付けに繋がられるような方向に進めていきたい。しかし、市が関係しないイベントは難し

いため、商工会議所や青年会議所の委員さんから知恵をお借りし、意識や場面を通じて感じてもらう投げかけを行なわなくてはいけないと感じた。今後、一生懸命検討する。

(委員) ごみ問題は消費活動と関わっており、難しい問題である。

可燃ごみの中に衣類等が混入されているが、衣類等のリサイクルができるようになると、減量に繋がる。引越等で衣類を可燃ごみとし出すのではなく、資源物として出す。ごみではなく、資源物として役立っていくところに回す余地は、まだあるのではないか。

ごみが出てしまうということは、ものを買って捨ててしまうということと関わっており、非常に難しい。コンビニ弁当を食べればごみが出る。しかし、コンビニ弁当を買わず、毎日お弁当を持参しましょう。お茶はマイボトルに入れて飲みましょうということを皆に徹底すると、つまらない世の中になってしまう。買い食いや出掛けるときにコンビニのおにぎりを買う楽しみがある反面、ごみは必ず出てしまう。どうしたら抑制できるのか難しい問題である。生きてゆけばごみが出てしまう。しかし、そのごみをどのように出さないようにするか。ごみを出さない人はつまらなくて、お付き合いしたくないという感じになってしまつては困る。ごみを出す存在であることを認識し、ごみではないものとして楽しくどう活かしていくか。皆にごみになるものを買っていると思われてしまうことも嫌である。

(事務局) ごみを扱う立場からすると、景気が悪くなりごみ量が減ってほしいと思いたくなる。消費税の増税で消費が冷えるという話があり、またごみのために生活している訳ではないため、消費活動が活発になってもらわないと困る。良いことを言っていたが、楽しくできる工夫ができないかということである。規制することで減らすのではなく、楽しく行なえる気持ちになることが大切であると感じた。考え方を変えることは容易ではないが、出された意見は基本計画や実施計画の中で、知恵をお借りして盛り込んでいきたい。

布類を新たに分別収集するとなると約1億円の収集経費が別に掛かってしまう。分別収集を検討した際、捌ける行き先が無いため困ってしまうと業者から聞いている。東南アジアへ古着として輸出しているが、子供服は用をなさない。工場等で使用するウエスは白いものでないと使用できない。これらに満たないものは可燃ごみになっているのが現状である。そのため布類の分別収集は二の足を踏まざるを得ない。しかし、可燃ごみを減らすために、集団資源回収での布類回収を推進している。集団資源回収登録団体に布類回収の協力をお願いし、集団資源回収でどのくらい増やせるか進めているところである。

(会長) 人口について、国勢調査に基づく人口と住民台帳による人口がある。毎年、一人当たりのごみ量を算出する際は、住民台帳の人口に基づいて算出していると思うが、そうすると国勢調査の人口は必要なのか。国勢調査の人口は増えており、住民台帳の人口は減っている。長野市の人口は減少に入つたと言われているため、国勢調査では違ってくる。検討していただき、どちらか一つにした方が良いのではないか。

ごみ量は景気や減量に向けた取り組みが関連する。平成24年度までは景気が悪かったが、平成25年度はアベノミクスで多少良くなった。平成25年度のごみ量データが出ると景気が良くなったか分かるため、できるだけ早くデータを示していただきたい。平成25年度ごみ処理概要が平成25年10月に発行されているため、早い時期に発行できるようお願いしたい。

(事務局) 国勢調査に基づく人口と住民台帳の人口を記載したのは、事務局の都合である。基本計画の推計人口は、5年毎の国勢調査に人口動態を入れた形でやっている。今後の推計は、実態に即した人口が望ましいと思われるため、国勢調査及びそれに基づいた推計人口で考えていく。

平成 25 年度データについては、今後の計画に影響する部分があるため、早めにお示ししたい。

(4) 今後の審議会の開催予定について

◇資料 9「平成 26 年度 審議会開催計画（案）」により説明（事務局）

◇次回の第 3 回審議会は、3 月 17 日（月）を予定したい。審議内容は「ごみ処理実施計画の平成 25 年度実施状況の報告及び平成 26 年度実施計画（案）」を予定している。（事務局）

<以下、質疑応答>

（会 長） 挨拶で平成 29 年から先が大事であると申し上げたが、新しい焼却施設の計画が関連してくるからである。平成 30 年度に新しい焼却施設が出来るということで、焼却施設の規模がまさに可燃ごみの量に関係してくる。分かっている範囲で良いので、説明をお願いします。

◇「長野広域連合ごみ処理広域化計画」について説明（事務局）

8 その他

○「ながの環境団体大集合!!2014」の参加案内（委員）

○本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。（事務局）

9 閉 会

（16 時 10 分閉会）

・清掃センター施設見学【希望者】

※見学希望者なし